

21世紀のニーズにこたえる電力・産業システム



電力・産業システム事業所長

前原史彦

20世紀最後の三菱電機技報の特集号を発行するに当たり、システムインテグレーション技術によって顧客のニーズにマッチしたソリューションビジネスの展開を目指し、プラントメーカーとして“挑戦”を続けている電力・産業システムの技術動向とその取組を紹介する。

1990年代後半からのインターネットの爆発的な普及に代表されるように、情報革命を支えるIT(Information Technology)技術の進歩は目覚ましいものがある。このIT技術を活用し、電力・産業システムで培ってきた技術を基に、既存ビジネスにいかに取り入れていくか、どのように新規ビジネスを創造し確立していくかが我々の“挑戦”である。また、従来のプラントビジネスを20世紀の遺産に終わらせず、21世紀に新たな形で創造し、顧客に大いに満足していただくことが我々の“使命”と考える。

電力・産業システム事業所では、ITソリューションを実現するために、IPネットワーク(インターネット)を核に、エンタープライズフレームワーク、フィールドフレームワーク、IT端末の主要コンポーネントを開発し、これらにシステム構築技術を加えて、ITビジネスに適用できるプラットフォームを提供している。

電力分野を中心に、電力自由化の本格化に対応し、需要家サービス、電力流通ビジネス、電力e・ビジネス等のIT応用新規ビジネスの確立が急務となっている。また、既存の監視制御分野においてもWeb応用技術が拡大する傾向にある。これらの顧客ニーズにマッチしたソリューションビジネス展開を図っていく上で、従来のようにプラントメ

ーカーだけで構築していくシステムビジネスではなく、ユーザーと一体になったソリューションビジネスの構築がますます重要となっている。

ITソリューションとして具体的に新規ビジネスへ取り組んだ例としては、エンタープライズフレームワークでは、企業間業務連携を図り、エンジニアリング技術伝承に主眼を置いた“電力・鉄鋼CALCの適用技術”、フィールドフレームワークでは“電力自由化時代の需要家サービス”、IT端末を活用し場所や時間に制約を受けない監視制御を実現した“Web応用監視制御システム”等が挙げられる。

計装制御システムにおいても、従来の集中型情報制御システムからクライアント/サーバ型統合システムを経て、更により小型化・低価格化・分散化・高機能信頼化の傾向が著しいネットワークコンピューティング型の時代に入ってきた。このように新たな計装制御システムの構築に不可欠な制御コントローラ、プロセス入出力制御装置、オープンネットワーク技術の新規開発の加速と、その適用を進めている。

電力・産業システム事業所は、各産業分野におけるプラントやシステムの構築と、それらの構成要素の開発、製造、保守を一貫して行っており、顧客のニーズに適合した信頼性の高い最適なシステムを構築し提供していく役割を担っていると認識している。

今後も、時代の動きを先取りし、顧客の信頼にこたえられるエンジニアリング力を確保し、来るべき21世紀につなげていきたい。